

商店街に仕掛けられた昭和の謎

～七夕星座絵タイルを解く～



2025.1.18 平塚市観光協会 講師：澤村泰彦（平塚市博物館）

■なぜ路面に星座絵があるのでしょうか？

平塚駅周辺商店街は、今から40年ほど前、「平塚市中心街まちづくり計画」にもとづいてモール化整備されました。昭和60年度（1985）に紅谷パールロード、61年度（1986）に東海道本通り、その翌年、翌々年に、駅西口から北に向かう西口通り、新仲通りが順次改修されました。このとき、七夕まつりの主会場という街の特色を活かした路面装飾として、星座絵タイルが設置されました。



こと座、わし座

■どんな星座絵がありますか？

この星座絵タイルは、七夕の夜の星空を再現して配置されています（⇒マップ・星図）。時刻は織女星（おりひめ星・こと座のベガ）と牽牛星（彦星・わし座のアルタイル）が高く輝く7月7日深夜。七夕まつりの会場の中心にこの2星座を据え、東にペガサス座やみずがめ座、西にはおとめ座やうしかい座、南にいて座やてんびん座、そして北は北極星があるこぐま座など、当初は全部で24の星座がありました（現存は22星座）。



みなみのうお座

■星座絵に記された文字は

絵とともに星座の名前を記したタイルが11種類あります。おとめ座、へびつかい座は星座の学名を記していますが、それ以外は、18世紀後半にパリで刊行された『フラムスチード天球図譜』第二版に記す星座名が用いられています。ジョン・フラムスチードはグリニッジ天文台の初代天文台長です。この書は日本でも復刻されて、掲載の星座絵は広く普及しています。



おとめ座

■デザインは不統一

星座名だけでなく、星を線で結んだり、描画方法、絵のタッチなども、さまざまです。年度ごとに街路が順次整備される中で、内容は道路整備や駅前ターミナル整備などがあり、市の所管課も請負う業者もまちまちでした。街路ごとに舗装方法も異なるので、決められた星座を入れたもののデザインの統一はむずかしかったのではないのでしょうか。



おおぐま座

■これは、なに座だろう？



①こと座



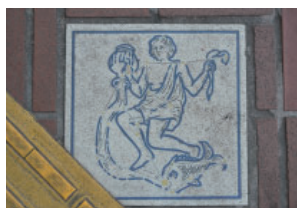
②わし座



③みなみのうお座



④みずがめ座



⑤みずがめ座



⑥みずがめ座



⑦ペガサス座 (こうま座)



⑩いて座



⑪てんびん座



⑫てんびん座



⑬へび座・へびつかい座



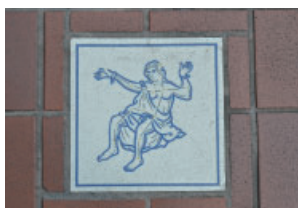
⑭おとめ座



⑮かんむり座



⑰うお座



⑱アンドロメダ座



⑲はくちょう座



⑳ヘルクレス座



㉑うしかい座



㉒さんかく座



㉓ペルセウス座



㉔カシオペア座



㉕ケフェウス座



㉖こぐま座



㉗ふたご座



㉘おおぐま座



㉙やぎ座 (消失)



㉚いるか座 (消失)



㉛ペガサス座 (消失)